

日本鉄鋼協会記事

理 事 会

53年度第3回理事会 開催日: 7月20日. 出席者: 荒木会長, ほか 38 名.

1. 定款第 11 条中一部変更に関する件

定款第 11 条正会員は理事会の承認を経て入会するもの, または団体であつて, 入会金 700 円および会費年額 7000 円を納めるものとする.

変更案

定款中第 11 条中入会金 700 円とあるを 800 円に, 会員年額 7000 円とあるを 8000 円に変更する.

(昭和 54 年 1 月 1 日より実施)

上記の通り変更案を決定した.

2. 臨時総会招集の件

日時 昭和 53 年 10 月 3 日(火) 9:00~

場所 富山大学教養部

議題 定款第 11 条中一部変更に関する件

上記の通り臨時総会を招集する事を決定.

企 画 委 員 会

第2回委員会 開催日: 7月14日. 出席者: 河西委員長, ほか 16 名.

1. 日本, スウェーデン合同シンポジウム開催の件

本年 12 月 4, 5 日経団連会館において開催する予定. スウェーデン側からはエケトルプ教授他約 10 名の参加者を予定している. 日本側は大学, 会社から若手の参加者 70 名以内に絞り, こじんまりした充実したシンポジウムにしたい. 尚経費約 100 万円は予備費より支出することになった.

2. 事務室にテレックス設備架設の件

当初経費として債券 60 万円, 設備費用 13 万円位が必要である. なるべく早く設置することを決定した.

研 究 委 員 会

昭和 53 年度第3回委員会 開催日: 7月19日. 出席者: 不破委員長, ほか 18 名.

1. 国際会議について

次の 2 件の国際会議の開催について, 概要が事務局より報告され, 目的, 内容等の質疑が行われた.

(1) 日本・スウェーデン合同シンポジウム

1978 年 12 月, 東京予定

(2) 第 1 回圧延に関する国際会議

1980 年 9 月, 東京予定

2. 基共研新規テーマについて

6 月 22 日の基共研運営委員会におけるテーマ案審議状況が報告され, この結果について検討を行つた. 鉄鋼協会として 2 案をえらび, 委員長候補を各委員より提案していただくことになった.

編 集 委 員 会

運営委員会 開催日: 7月21日. 出席者: 長嶋委員長 ほか 9 名.

1. 和文会誌分科会, 欧文会誌分科会, 講演大会分科会, 出版分科会より, 活動報告がなされた.

2. ヘンダーソン賞候補論文につき校閲者を決定した.

第6回和文会誌分科会 開催日: 8月11日. 出席者: 長嶋主査, ほか 17 名.

1. 21 件の論文審査報告がなされ, 掲載決定 17 件, 照会后掲載可 2 件であつた.

2. 「鉄と鋼」第 64 年第 14 号 (12 月号) に論文 13 件, 技術報告 1 件, 特別講演 1 件掲載決定した.

第6回欧文会誌分科会 開催日: 8月9日. 出席者: 橋口主査, ほか 7 名.

1. 5 件の論文につき審査報告がなされ, 掲載可 2 件, 照会后掲載可 3 件であつた.

2. 「鉄と鋼」64 年 8 号より, 4 件の研究論文と 2 件の Report, 64 年 9 号より, 1 件の研究論文と 1 件の Lecture, 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より 3 件の研究論文及びその他 1 件の研究論文を勧誘することとなつた.

共 同 研 究 会

鉄 鋼 分 析 部 会

第 53 回鋼中非金属介在物分析分科会

開催日: 8月9日. 出席者: 宮本主査直属幹事, ほか 13 名.

本分科会では, 現在進行中の鋼中炭化物抽出用標準試料に関する共同実験の内

1. 430 Type 不銹鋼

2. Fe-M-C 系試料

1) Fe-Mo-C 系

2) 実用鋼

の共同実験のまとめと異常値などに対する追加確認実験についての報告が行われた.

尚, 上記テーマについては昭和 53 年度中に研究終了となる予定であるため, それ以後の研究テーマについて討議が行なわれた

標 準 化 委 員 会

ISO 鉄 鋼 部 会

第4回 EC 分科会 開催日: 7月28日. 出席者: 山南主査, ほか 9 名.

議題 1. ISO/TC17/EC 第 3 回国際会議報告

2. ISO/TC17 幹事国に関する今後の対策

第8回 SC16 分科会 開催日: 7月21日. 出席者: 山南主査, ほか 15 名.

議題 ISO/TC17/SC16 第 2 回国際会議報告

第20回 TC5 分科会 開催日: 7月17日. 出席者: 日

下部主査, ほか 8 名.

議題 ISO/TC5/SC1 オスロー国際会議対策

第 5 回 TC164 分科会 開催日: 7 月 28 日. 出席者: 川田主査, ほか 19 名.

議題 ISO/TC164 総会, TC164/SC1 第 2 回会議, TC164/SC3 第 2 回会議対策

データシート部会

第 3 回破壊靱性データシート分科会

開催日: 7 月 20 日. 出席者: 金沢主査, ほか 13 名.

- 議題
1. フォーマットの作成
 2. 対象鋼種及び形状の決定
 3. WES, NK 鋼種認定データの取扱い
 4. 趣意書の検討と送り先の決定

第 1 回微小硬さ試験方法 JIS 原案作成分科会

開催日: 8 月 3 日. 出席者: 川田主査, ほか 22 名.

- (1) 試験方法規格との関連から基準片規格まで検討するかどうか.
- (2) 現行 JIS Z2244 ビッカース硬さ試験方法の中に入るか, 独立規格とするかどうか.
- (3) ヌーブ硬さ試験を取扱うかどうか.
- (4) 微小硬さ試験の最小荷重, 最大荷重をいくつにするか.

材料研究委員会

第 30 回委員会 開催日: 7 月 20 日. 出席者: 鈴木幹事長, ほか 8 名.

当委員会は焼入性の評価方法について 50% マルテンサイト硬さを測定しこれをインデックスとして検討しているが, 問題点として次のものが出され, 調査することになった.

1. インデックスとしてジョミニー曲線の変曲点を採用して検討する.
2. 焼入性に及ぼす各元素の影響には元素間の交互作用が認められるのでその程度をチェックする.
3. 溶体化不充分的試料のデータをチェックする.

鉄鋼基礎共同研究会

特殊製錬部会

第 12 回部会第 2 分科会 開催日: 7 月 27 日. 出席者: 相山主査, 郡司第 3 分科会主査, ほか 13 名.

1. 研究発表 3 件の発表があり, 活発な質疑応答が行われた.
 - (1) 40 t ESR における使用後の電極先端調査, (2) ESR 電極先端の性状, (3) スラグ組成とプールの関係
2. 部会最終報告書について
第 2 分科会担当分の章, 項の題目を決定するとともに各委員が今までに発表した資料をどの程度のページ数にまとめられるか検討した.
3. 用語について
検討を進めてきた ESR 用語については最終報告書に

入れることとし, 完全を期するため, 小委員会を作り, 検討することになった.

第 12 回部会第 3 分科会 開催日: 7 月 28 日. 出席者: 郡司主査, ほか 13 名.

1. 研究発表 次の 2 件の発表が行われ, 活発な質疑応答がなされた.
 - (1) ESR インゴットの数学モデルによる解析, (2) ESR インゴットの凝固過程の解析 (IV)
2. 文献紹介, ソ連の ESR に関する文献が 2 件紹介された.
3. 最終報告書について
第 3 分科会担当の章, 項目の題を検討した. 次に各委員が今までに発表した資料を何ページ程度にまとめられるか調査し全体のページ数決定の参考とすることとした.

第 15 回部会第 6 分科会 開催日: 7 月 27 日. 出席者: 尾上主査代理, ほか 7 名.

1. ESR 文献集第 3 集
 - (1) 内容分類の分担および次の点を決定した.
 - (2) 第 1 集, 2 集未収録文献を再度調査し, 極力収録につとめる.
 - (3) 第 1~3 集の総索引を第 3 集につける.
2. 特殊精錬法第 2 集
 - (1) 収録モレを少なくするため, 各委員の自社保有プロセスに関する資料を見直す.
 - (2) 文献リストの整理を 9 月末までに行う.
3. ESR 溶製材材質データ集
 - (1) 仮原稿作成にあたって問題点を抽出し, 細かい点を定めた.
 - (2) レイアウトは次回検討

微量元素の偏析部会

第 11 回部会 開催日: 6 月 14 日. 出席者: 須藤部会長, ほか 16 名.

本部会では, 4 件の研究発表の他東北大学金属材料研究所小倉次夫助教授による「低合金 Ni-Cr 鋼における P の粒界偏析」についての講演が行われた.

尚, 本部会は昭和 53 年度で研究活動を終了する予定であり, 終了事業としてのシンポジウム, 総合報告書の作製について部会長案が説明され承認された.

高温変形部会

第 6 回部会 開催日: 8 月 10 日. 出席者: 田村部会長, ほか 33 名.

1. 講演
 - (1) 速度論を基礎にした金属の高温変形抵抗の推定法と加工過程の応力解析への応用
 - (2) ねじり変形した金属における温度, 歪速度及び歪の分布
 - (3) SUS 630 (17-7 pH) の熱間加工性に及ぼす化学成分の影響
 - (4) オーステナイトステンレス鋼鑄造試料の熱間圧延による組織変化
 - (5) 3%Cr-0.8%C 鋼のミクロ偏析と再結晶挙動に及ぼす熱間加工の影響
2. 協議事項
 - (1) 部会の運営を円滑に行うよう運営委員会を構成する.
 - (2) 来年 2 月 14 日 (予定) シンポジウムを開催する.
 - (3) 文部省科学研究費を申請する.